



小林英司客員教授が初代 Lars-Erik Gelin 賞に 選ばれました

自治医科大学 医学部外科学講座（移植外科学部門）教授 水田耕一

2000年に自治医科大学に新設された分子臓器治療研究センター臓器置換研究部の教授としてご活躍された小林英司先生（自治医科大学5期生、新潟県出身）が、スカンジナビア・マイクロサージャリー・アカデミー（ヨーテボリ大学、スウェーデン）が新設した Lars-Erik Gelin 賞に選ばれ、2018年8月23日、ハンガリーのデブレツェンで授賞式が行われました。

Lars-Erik Gelin 先生(1920-1980)は、スウェーデンにおける最初の移植外科教授で、北ヨーロッパ最大の移植センターを作り上げた先生です。その先生の功績を称え、スウェーデンで財団が設立され、臓器移植に関わる基礎的、臨床的研究者を支援してきました。この度、スカンジナビア・マイクロサージャリー・アカデミーが、本領域のノーベル賞に育て上げるべく、Lars-Erik Gelin 賞の設立が検討され、その初代受賞者に小林英司先生が選ばれました。受賞講演は2年後にスウェーデンのヨーテボリで行われる予定です。

自治医大では2001年から生体肝移植プログラムが、小児外科・移植外科の初代教授の河原崎秀雄先生と水田らで開始しましたが、小林英司先生にはマイクロサージャリーを応用し、臨床での肝動脈再建をお願いしてきました。そして私自身の学位研究をはじめ、多くの小児外科医、移植外科医が、実験マイクロサージャリーを指導していただき学位を取得してきました。今回の小林先生の Lars-Erik Gelin 賞の受賞は、このような自治医科大学での業績も高く評価されたものと伺っております。小林英司先生の受賞は、自治医科大学にとって大きな誉であると同時に、自治医科大学の教職員、卒業生、ならびに在校生にとって大きな励みを頂いたことであると思います。



<授賞式の様子>



<受賞記念品>

小林英司先生は、2008年5月にトルコのイスタンブールにおいて開催された、世界移植学会が中心となり世界78カ国152名の専門家が一同に集まった臓器移植サミットに、日本代表として参加されました。そこでは、自国での脳死・心停止ドナーの普及、臓器売買の全面禁止、渡航移植の制限、生体ドナーの保護などが骨子となるイスタンブール宣言が発表されWHOもその指針を承認しました。このイスタンブール宣言を受け、2009年に改正臓器移植法が成立したことは、皆様、ご承知の通りです。

2010年の改正臓器移植法の施行により、それまで年間平均8件だった我が国の脳死下臓器提供数は、2017年は77件まで増加しましたが、年間500件の韓国や、年間9,000件の米国と比較すると、依然として桁違いの少なさであり、慢性的なドナー不足から、肝移植待機患者と肺移植待機患者の約40%、心臓移植待機患者の約25%が待機中に死亡するという事態が続いています。すなわち、韓国や米国では臓器移植で救える命が、日本に住んでいるがために救えないということであり、我が国における臓器移植治療の遅れは、今の時代の日本に生まれた数少ない不幸のひとつと言い換えることもできます。

今でも、心臓病の小児患者を中心に、ご家族が渡航移植のために高額な募金を集める状況は解消されていません。それでも日本では、数か月の間に1億円～2億円の寄付が集まります。しかし本当の意味で我々日本人が行うべきことは、Money donation（募金・義援金）ではなく Organ donation（臓器提供・臓器寄付）の意思表示ではないでしょうか。

「日本人として生まれてしまったので移植は諦めて下さい」という悲しい言葉を伝えないためにも。

移植医療は、もはや他人事ではありません。皆様も、心臓、肺、肝臓、腎臓、小腸、膵臓、角膜などの臓器移植を必要とする患者を実際に担当したり、外来で診察したり、あるいは家族の一員や当事者として、今後、移植医療と関わる可能性は十分にあります。学校教育においても、「人の死」についてや「臓器移植」についての授業を行う学校も徐々に増えてきています。スウェーデンは日本の約20倍の臓器提供を行う臓器移植先進国です。そのスウェーデンの財団から、日本人の小林英司先生が臓器移植の基礎的・臨床的研究の実績を評価されたことは、極めて意義深いことです。小林英司先生の、この名誉ある受賞に恥じないように、我々日本人は、臓器移植後進国からの脱却に向けて、一人一人が考え、努力するべきではないでしょうか。

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

1. 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
2. 自薦・他薦を問いません
3. 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>